



雁塔聖教序・唐時代、褚遂良の
 倣書で書いています。
 書は行書の筆意を帯びた楷書。
 点画の間は軽妙な細い線で、
 ゆったりとしていて、粘り、抑揚がある。

かいげつす かけ
 海月澄んで影なし
 海上の月は澄みわたって影もないこと。
 一点の迷いの影すらも見えない自分の
 澄んだ心のたとえ。

(『臨濟録』より)

